

K O B E K A Z O K U

神戸佳族

Vol.44

2013
9・10

兵庫・神戸の芸術文化交流 & 発信基地 兵庫・神戸CSメール



西田眞人 秋咲く 2013年作

opinion

「文化創生都市」 神戸市長 矢田立郎

神戸・創造人の肖像

自分らしさを失わず ふるさと・神戸に恩返ししたい
久元喜造



久元 喜造

PROFILE

ひさもと・きぞう 1954年兵庫区生まれ。神戸市立川池小学校（現会下山小学校）、小部小学校、山田中学校、灘高等学校を経て東京大学法学部に入学。76年に自治省（現総務省）に入り、自治行政局行政課長、大臣官房審議官、自治行政局選挙部長などを歴任。出向で京都府地方課長や札幌市財政局長なども務めた。自治行政局長を最後に総務省を辞職。2012年11月から13年6月まで神戸市副市長を務めた。

自分らしさを失わず ふるさと・神戸に恩返ししたい

長年、総務省で地方自治に携わり、2012年11月から今年6月まで神戸市副市長を務めた久元喜造さんに、生まれ育った神戸のまちの魅力や目指すべき将来像などを語っていただきました。

—神戸生まれ、神戸育ちのこと。幼少期の思い出を聞かせてください

小学5年生まで新開地に住んでいました。そのころは、聚楽館などの劇場や多くの映画館があり、「東の浅草、西の新開地」と呼ばれ、娯楽のまちとしてにぎわっていました。

自宅2階の物干し場に上がる
と、どこからか三味線や小唄
が聞こえてきたものです。

昨年、神戸市副市長を拝命
して帰神し、40年ぶりに神戸
で生活していますが、まちの
どこを歩いても懐かしく感じ
ますね。特に湊川公園はよく
遊んだ思い出の場所。神戸タ

ワーや遊園地、アコーディオ
ンを弾きながら軍歌を歌う傷
痍軍人と、訪れるたびに当時
の風景がよみがえってきます。

一久しぶりに住まれて、あら
ためて神戸の魅力を感じたの
では

東京の大学を卒業後、旧自

治省に入省し、公務員人生の
大半を霞が関で過ごしました。
た。さらに石川県や青森県、
京都府、札幌にも住みました。
それぞれに良さを感じました
が、豊かな自然や文化度の高
い生活環境など、神戸は他都
市に比べて格段に魅力がある
と思います。独自のブランド



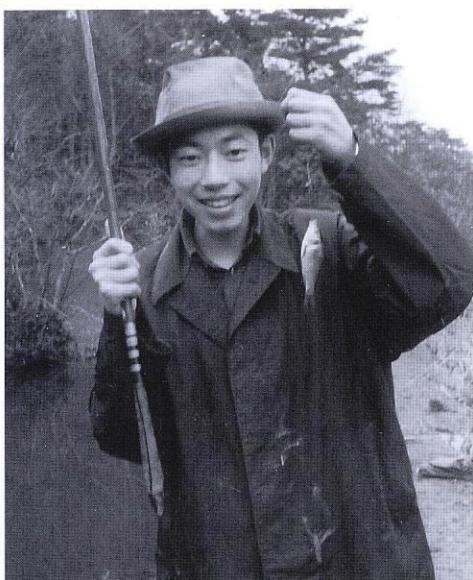
自宅近くの湊川神社で七五三をした時の
様子。「よくセミを取って遊びました」と
久元さん

力を持つているのは神戸なら
ではの強み。明治の開港以来、
外来文化を積極的に取り入れ
て発展してきた神戸には、新
たなものを追求し、育てよう
とする開放的な気風や風土が
今もなお息づいています。そ
れが『神戸らしさ』につなが
っているのではないでしょう
か。

また、神戸市は戦前から日本
の地方自治をリードし、戦
後「山、海へ行く」の都市經
営で名をはせました。このよ
うな輝かしい歴史や伝統を磨
き上げ、神戸の地位をさらに

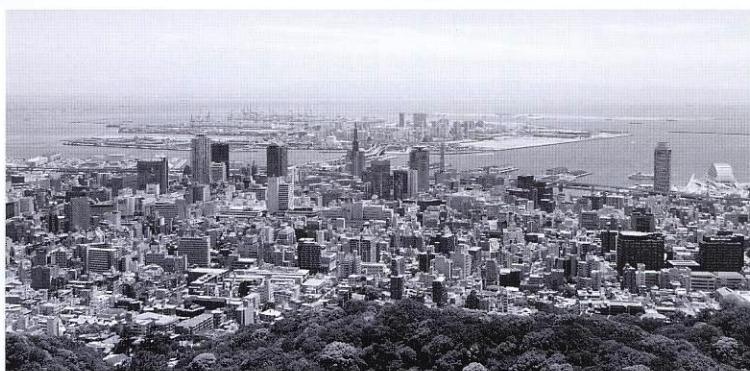
高めていくことが望されます。
——ここ10年、地方自治制度の
改革に打ち込んでこられまし
た。副市長就任を引き受けた
決め手は

制度を動かす仕事をふるさ
とでできることにやりがいを
感じたのはもちろん、阪神・
淡路大震災時、何一つ神戸の
役に立てなかつたという強い
後悔の念があつたのも理由の
一つです。震災当時、札幌で
勤務しており、テレビをつけ
ると、建物が倒壊した三宮の
風景が目に飛び込んできま
した。生まれ育つたま
ままれている
様子が映し出された時
は、悔しくて涙が止ま
らなかつた
です。そ
な思いもあ



中学生のころは、池でフナ釣りをするのが趣味。引っ
越した北区は自然も多く、シマミミズを餌にして釣り
を楽しんだという。

5



神戸のまちの全景。「より魅力的な都市を目指していきたいですね」と久元さん

対話をしながら少しずつ自分の個性やカラーを出していくよう努めました。

—神戸の目指すべき将来像についてどのような意見をお持ちですか

デザインを生かしたまちづくりをさらに進めていく必要があると思います。2008年、神戸市はユネスコ・創造都市ネットワークのデザイン都市に認定され、デザインを生かしたまちづくりを進めています。デザインと聞くと難しく考えがちですが、神戸が持つ資源にデザインの視点を加え、さらにハイセンスでファンション性の高いまちをつくりていくというものです。

—今後、ご自身が進まれる道についてどのように考えていただけますか

これは建物などに限ったことではなく、まちの表示板や観光案内板などにも言えること。それらのデザイン一つでまちの印象はぐっと変わります。そのような取り組みを今後も市全体で進められたらいい風を吹かせようと力まず、

いですね。
また、芸術文化の力は元気な神戸の実現に欠かせません。実際、震災から立ち上がり市民の気持ちを奮い立たせてくれたのは、芸術文化の力だったと聞きます。その意味で、今秋開催の「神戸ビエンナーレ2013」は、市民とアーティストがつながる場であり、新たな感性との出会いや、まちの魅力の再発見につながります。ぜひ、会場に足を運んでいただき、芸術文化に触れて大いに盛り上がってほしいです。

が、一方で、一つの物事を深く考え方や力や、経験に裏打ちされた直感力が養われます。このような習得を死ぬまで続けることが人生なのかも知れません。これまでに得た経験や知識を基に、今後も自分らしさを失わず、神戸のため、ひいては社会のために役に立つ存在であります。故郷への恩返しはまだまだこれからです。

地方自治体で仕事をしていり、公務員人生の最後に故郷に恩返ししたいと、引き受けました。

久元さんによると、公務員としての経験は、必ずしも「公務員人生の最後に恩返ししたい」と思って行動するためのものではありません。むしろ、公務員としての経験が、初めて市政に関わる身。恐らく職員の皆さんと私との間で価値観に違いがあると感じていたので、初めから新しい風を吹かせようと力まず、

人間は年を経るごとに記憶力や瞬発力は弱くなります



「神戸ビエンナーレ2013」会場周辺